

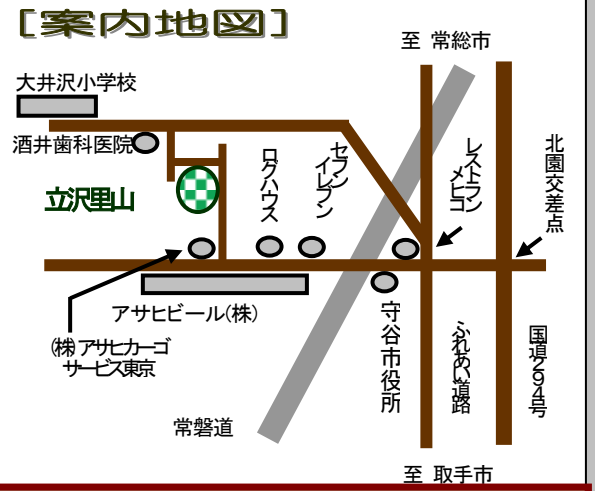
立沢里山

平成25年4月14日 第28号

里山新聞

発行：立沢里山の会 代表 鈴木 榮
 問い合わせ先：事務担当
 須賀（守谷市役所内 45-111 内線 351）
 立沢里山ホームページ
<http://www.geocities.jp/tatzawasatoyama/>

ボランティア募集
 あなたも一緒に楽しみましょう！



～目次～

- 1 炭焼き作業と参加者公募
- 2 里山の会総会と懇親会
- 3 中村洋さんご逝去
- 4 松前台小学校感謝の集い
- 5 県北五浦海岸旅行
- 6 炭焼きの実施
- 7 郷州里山に「上総堀」支援

「立沢里山新聞」の記事をお願いします
denen21@hb.tp1.jp 清野

1 炭焼き作業と参加者公募

今春の炭焼きに向けて竹林の伐採作業を11月定例会から実施しているところです。従来は会員だけで作業してきましたが、今回は炭焼き体験希望者を公募することにしました。地元のミニコミ紙「常陽リビング」に2度にわたり参加者募集の記事を掲載したところ、守谷市内外から10名前後の参加希望の連絡がありました。

第1回体験作業を1月26日（土）9時から里山竹林で実施しました。公募者を含めてかなりの人数になりました。ほとんどの参加者が始めてなので、竹林伐採から炭焼きまでの全体的な流れを説明しました。その後、体験的に作業手順にそって伐採作業からとりかかり、順次、チェーンソーで定尺に切り揃え、小割作業と一部節とり、結束作業までを行いました。

休憩時間に自己紹介や炭焼きについての情報交換を行いました。また帰りに地主さんから庭の「ユズ」を採ってよいとお気使いをいただき皆で持ち帰りました。

第2回目は2月23日（土）に実施しました。今回も新規参加者を含めて若干参加者の入れ替わりがありました。同様の人数が集まりました。時折突風の吹く寒い天候でしたが、竹林の中は風も弱まり木漏れ日もさしてそれほど寒さを感じません。作業内容は小割作業から節とりと結束作業です。

やはりこの作業は人数が多いとはかどり午前中に終了しました。休憩時間に昨年の竹酢液（ボトル）を配布し使用方法などについて説明し、熱心に意見交換が行われました。



2 里山の会総会と懇親会

平成25年「立沢里山の会総会」と懇親会を、1月19日（土）午後4時半から「おおくぼ」開催しました。本年の事業計画と予算と決算が原案通り承認されました。その後、親睦旅行について意見交換を行いました。

決定された本年の事業計画は以下のとおりです。

平成25年 立沢里山の会 事業計画

月・日・時間等	活動内容	区分
1/19(日)16:30～	総会、懇親会	会員
1/26(土)9:00～	竹加工作業(裁断、小割)	会員、公募
2/23(日)9:00～	竹加工作業(小割、結束)	会員、公募
3/2(土)8:00～	親睦旅行:五浦海岸	会員
3/23(土)9:00～	竹運搬、窯詰め込み	会員、公募(自然博物館内炭窯)
3/26(火)9:00～	火入れ	会員、公募(自然博物館内炭窯)
4/27(土)9:00～	田んぼ代かき、木道補修等	会員、学校等
5/未定 9:00～	田んぼの学校:田植え	小学校児童、会員
6/22(土)9:00～	田んぼ除草等	会員、学校等
7/27(土)9:00～	除草、自然観察会	会員、学校等
8/17(土)18(日)	北守谷まつりバザー参加	会員等(立沢公園)
9/未定 9:00～	おだ作り、稲刈り準備等	会員、学校等
9/未定 9:00～	田んぼの学校:稲刈り	小学校児童
9/下旬	脱穀、粃すり	会員等
10/26(土)9:00～	おだ片付け、除草等	会員等
11/23(土)9:00～	竹林整備(伐採)	会員等(立沢周辺竹林)

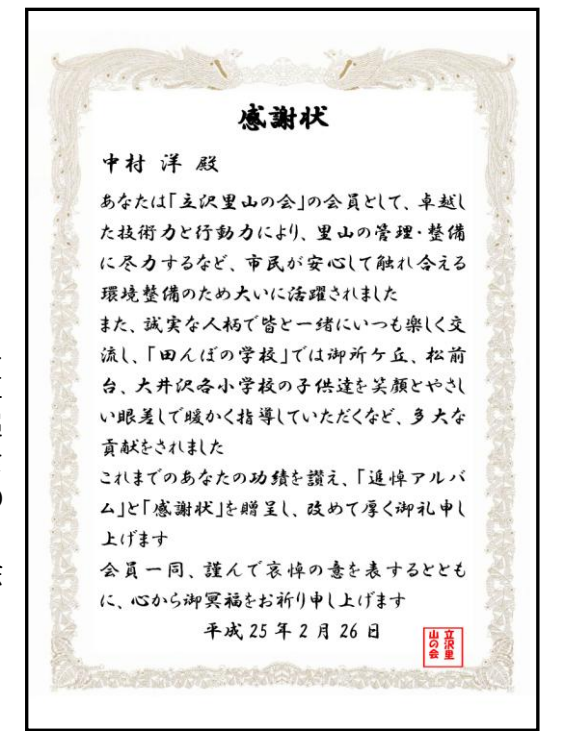
3 中村洋さんご逝去

昨年11月から入院治療中（胃がん）であった会員「中村洋さん」が平成25年2月23日（土）午前2時にご逝去されました。

葬儀は2月26日（火）取手駅七ホールにて執り行われ、立沢里山の会から5人が参列し、感謝状と追悼アルバムを贈呈しました。

家族から「先日頂いた里山米をお粥にして食べさせたところ嬉しそうだった」とのこと。また葬儀の最後に喪主から「主人は里山の会の活動をいつも楽しみにしていた。感謝状や追悼アルバムまで頂き、人生の最後に素晴らしい皆さんとお付き合いさせていただき、幸せに旅立ったと思います」との涙の挨拶がありました。

いつも紳士、穏やかな表情で里山活動に汗を流し、懇親会にもいつも出席してくれました。心からご冥福をお祈り申し上げます。



4 松前台小学校感謝の集い

2月13日(水)正午から松前台小学校の感謝祭があり、立沢里山の会から2名が参加しました。

最初に子供たちが書いた稲作体験の文集が手渡されました。各教室で子供達と食事をしたあと、体育館に集合し、交通指導員や町内会の皆さんなど22名が招待され、子供たちの御礼の言葉や感謝状、花束贈呈などが行われました。



5 県北五浦海岸旅行

3月2日(土)県北方面の五浦海岸へ貸し切りバスで視察旅行を行いました。

当日は晴天に恵まれて、朝7時過ぎにそれぞれ市内各所に集合してバスに乗り込みました。

参加者は16名です。

冒頭、車中で先日亡くなった中村さんの冥福を祈って黙祷を行いました。

北茨城インターで常磐高速道路を降りて「野口雨情記念館」を見学しました。「七つの子」など数々の童謡を作詞し、その中には沢山の里山の風景も謳われています。

同館や近くにある野口雨情の生家は海岸近くにあるために東日本大震災で地震や津波により大きな被害を受け、被災状況や復興に関する写真展も開かれています。

また、太平洋戦争時に風船爆弾の発射基地でもあったということで、その展示も行われていました。つい先日、エジプト、ルクソールにおいて気球爆発事故で日本人がなくなったことから、皆興味を持って見ました。9千個以上作成して打ち上げ、製作事故は一度だけ、1千個が米国本土に到達したとのことで、その製作制動技術は素晴らしいと感心しました。

その後、津波で完全に流出し、先日再建されたばかりの六角堂を視察しました。記念館では岡倉天心の日本美術院などの経緯が紹介され、当時の文化人の雰囲気も想像されました。常磐線があったとはいえ、よくそここんなにも辺鄙で厳しい場所に移住し、建築したものと感心します。現地にたたずむと断崖絶壁の借景と潮騒が素晴らしく、画家ならではの発想だと推測されました。

海岸を歩いて冷えた体を近くの五浦観光ホテル別館の温泉で温め昼食としました。名物の「あんこう鍋」を楽しみました。帰途、那珂湊お魚市場で買い物をして、夕方守谷に帰りました。



6、炭焼きの実施

今年是一般公募の参加者もあり、作業人数が多く順調に炭焼きの準備作業が進みました。3月23日(土)は立沢里山から自然博物館へ竹材を運搬しました。参加者が持ち込んだ軽トラックもあり、運搬、小割りから窯への詰め込みまで一気に進みました。

翌日は、参加者から持ち込まれた木の実などを入れた缶を含めて最終的な窯詰めと、炊き口の細工などを行い、火入れの準備を仕上げました。

3月26日(火)9時から火入れを行いました。天気も穏やかで風向きもよく、燃え上がりから温度上昇もスムーズにいきました。夕方5時過ぎには排気口の温度が80度近くまで上がったので、煙突をつけて竹酢液の回収を始めました。



29日(金)まで3日間で18㍉ポリタンクに6缶の竹酢液を採集しました。

29日の午後1時近く、煙の色も青く変化してきたので、最終時期を判断し、窯を全面閉塞しました。今年の関東地方は桜の開花が早く、29日はちょうど窯の前の神社や博物館内の桜が満開で、平日でも多くの花見客がありました。

「窯出し」

火止め後約2週間をおいて4月14日(日)9時から竹炭の窯出しを行いました。何度やっても、焼き過ぎや半焼きではないかと、開ける瞬間は緊張します。

入り口の土留めをはずして中をのぞくと、手前の3分の1近くは燃えています。奥にしっかりと確認ができてホッとしました。木の実や丸竹等もきれいにできて、昨年よりは仕上がりがよさそうでした。

遺品となってしまいましたが、中村さんが手配してくれたリンゴ箱が役に立ち、竹炭を詰めて倉庫に積み上げ保管しました。一般参加者には竹炭を自由に持ち帰ってもらいました。



7 郷州里山に「上総堀」支援

守谷里山ネットのアドバイスで、郷州里山の会へ当会の「飯塚攻一」井戸掘り名人を中心に「上総堀」の技術支援をすることになりました。

3月17日(日)事前調査を行い、掘削場所の決定、当日の作業打ち合わせを行い、4月12日(金)準備、13日(土)掘削作業を行うことになりました。

資材手配、櫓、掘削アタッチメント、給水管などの準備作業を前日午後に行い、13日当日は早朝の7時半から掘削開始です。

まず清めの塩とお神酒で儀式を行い、さっそく元気に作業に取り掛かりましたが、すぐに変な重労働であることが判明しました。午前中かかって4m近くまで掘り進んだときは皆疲労困憊の状態でした。

地質が水田土壌からピート層、粘土層へと変化し



て午後3時ころようやく8mに到達しました。ここでガイドパイプを挿入してみましたが、途中で止まってしまうカケヤで打ち込みました。その後ポンプアップしてみますが全く水が出てくる気配すらありません。結局、パッキンがずれていること、パイプを打ち込んだ際に粘土層を詰まらせた可能性があることから、パイプ内部から再掘削して挑戦したところ、見事に水が出てきました。

ただ、明確な透水層に達していないことからしばらく様子を見ることにしました。